

若林

WAKABAYASHI

アクアイグニス仙台における防火防災の取り組みについて

アクアイグニス仙台 支配人 平間 雅孝

アクアイグニス仙台は温泉、レストラン、カフェなど主要7店舗で構成された複合商業施設として、2022年4月21日に若林区藤塚地区にランドオープンいたしました。この藤塚地区は東日本大震災後、危険地域に指定され定住ができない場所となりましたが、新たな人の賑わいを創出するため、仙台市による集団移転跡地利活用事業がスタートし、我々を含め多くの事業者が仙台市東部沿岸部に事業進出をしています。

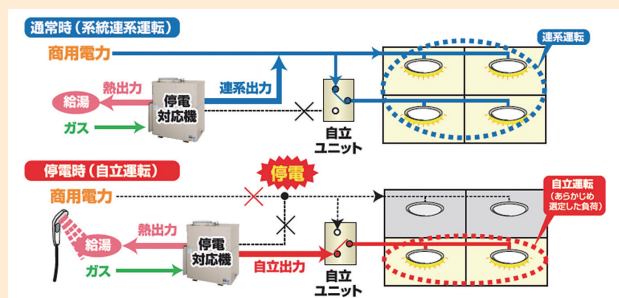
先の大震災で甚大な津波の被害を受け、いま現在も危険地域に指定されている仙台市東部沿岸部で、交流人口拡大を目的に複合商業施設を開業するにあたり、どうしても避けて通れないものが防火防災対応になります。

そこで、開業前から所轄消防署である若林消防署に避難計画や訓練実施、有事の際の対応相談などご協力をいただき、何かあればすぐに相談に乗っていただける関係が構築されました事は、アクアイグニス仙台にとっては非常に心強く、正に大きな安心感を得られる存在となっています。

そうした関係性の中で、開業年となった昨年11月の火災予防運動時に、若林消防署と合同の大規模消防訓練の実施が実現いたしました。アクアイグニス仙台のメイン施設となる温泉棟を使用しての合同訓練で、初期消火失敗から逃げ遅れたお客様がいらっしゃるという



合同訓練避難訓練工場



コージェネレーションシステム解説

想定の中、消防署員の方々との連携、屋上からの要救護者のヘリ搬送、はしご車での救助活動など、普段ではなかなか行うこと自体が難しい訓練を実施できたことは大変貴重な経験となりました。

また、当施設温泉棟1階には普段はどなたでも休憩などご利用いただけるフリースペースを用意しており、そちらのスペースには施設内外の案内チラシなどを設置しておりますが、防火防災に関する案内設置にも日頃から協力させていただいております。春の火災予防運動期間となる2月23日～3月7日にかけては、若林区小学生防火ポスター展を同スペースにて開催予定で、被災地に誕生した新たな人が集まる場所だからこそ、防火防災意識に係る取り組みには、今後もできる限り協力して参りたいと考えております。

施設面では地震・台風等の災害時、停電状態でもガスによる発電、熱供給が可能なコージェネレーションシステムを採用しており、数日間は温泉に入る事ができますので、災害時には地域の方々へお風呂を開放してご利用いただく事も事業計画段階から考慮して参りました。

更には、いざという時にはアクアイグニス仙台温泉棟屋上は地上15mの高さにかき上げしてありますので、津波に備えた第一次避難場所としても活用する事が可能です。

複合商業施設でありますので、当然のことながら事業経営を軸に運営はしておりますが、アクアイグニス仙台は両輪として、日頃から地域コミュニティの場としての役割を果たすことで、防火防災を常に身近に捉えていただける環境を作り続けて参りたいと考えております。



フリースペースチラシ設置

